

平成30年 議会広報広聴委員会先進地調査報告書

- 1 調査年月日
平成30年5月17日（木）～18日（金）
- 2 調査項目及び調査地
【調査項目】
 - (1) 議会だよりについて
（伊達市）
 - (2) 議会フォーラムについて
（登別市）
【調査地】
伊達市
登別市
- 3 派遣委員
委員長 星 克明
副委員長 堀 直人
委員 内山 祥弘（復命記録：伊達市）
委員 徳田 哲（復命記録：登別市）
- 4 調査報告書
別紙のとおり
- 5 その他
 - (1) 調査日程表
別紙のとおり
 - (2) 随行職員
議会事務局庶務係 土谷 晶子

平成30年議会広報広聴委員会先進地調査日程

星克明委員長、堀直人副委員長、内山祥弘委員、徳田哲委員、 随行事務局1名 (計5名)		
調査市	①伊達市 人口約 3万5,000人 議員定数 18人 ②登別市 人口約 4万9,000人 議員定数 19人	
行 程 概 要		
5月17日 (木)	江別市 → 札幌駅 → 伊達市議会 → 登別 午後	宿泊地 (登別市)
5月18日 (金)	登別市議会 → 札幌駅 → 江別市 午前	

調査項目 1 議会だよりについて 2 議会フォーラムについて

《伊達市》

1 伊達市の沿革

伊達市は、北海道の中央南西部、胆振地方に位置し、伊達地域及び、壮瞥町を挟んだ大滝地域から成っている。大滝区は、平成18年3月に旧大滝村との合併により伊達市となっている。人口は、約3万4,000人(平成30年3月31日現在)で、北海道内でも雪が少なく、四季を通じて気候が温暖なことから「北の湘南」と称されるなど、快適な居住地として知られている。

産業としては、農業では野菜、水産業ではホタテ貝養殖や秋サケ漁を中心に第一次産業を柱とし、様々な産業が展開されている。大滝地域では、森林産業や農業を中心に、北湯沢温泉郷を有し観光産業も盛んである。

2 議会だより作成にあたって、編集から配布までの流れについて

伊達市議会では、議会だより名称「みんなの市議会」は、委員数8名からなる広報常任委員会により編集、作成されている。

広報常任委員会の沿革としては、それまでは主に議会事務局が議会だよりの編集、作成を担っていたが、議会改革の一環として議員自ら編集、作成することとし(当初は一般質問部分から)、平成6年6月に広報特別委員会として発足している。その後、平成25年12月に、広報常任委員会として常任委員会化した。委員数8名は、各会派1名以上を基本として、各会派構成員数により按分し無会派議員も含め調整、選考されている。任期は2年である。

「みんなの市議会」は、上記広報特別委員会の発足に合わせ、平成6年8月より創刊されている。5月、8月、11月及び翌年2月のそれぞれ1日、年4回発行しており、発行部数は1回あたり1万3,350部である。誌面の規格としては、途中規格の変更も経ながら、現在はA4版、20ページ、上質紙の35kg、4色刷、カラー写真及びイラストを使用、となっている。予算としては、平成30年度議会費では、1,47円×20ページの年4回、1万3,350部発行で169万5,556円となっている。

配布方法としては、主に自治会を通じて配布するほか、コンビニ、市体育館、観光物産館、コミュニティセンター等に設置している。また、近隣市町、姉妹都市や、市内金融機関、他の議会事務局に郵送している。

議会だより発行までの基本的なスケジュールとしては、まず、定例会開会日に委員会が開催され、ページごとの作業役割分担と、原稿締切りから最終入稿までの日程スケジュールが協議、確認される。次に、定例会閉会日に委員会が開催され、原稿の提出状況の確認と、未提出分の催促などの対応、次回開催日の決定がされる。

その後、定例会閉会後の翌月5日頃までに、原稿を随時印刷業者に入稿する。翌月10日頃には、第1次のゲラ刷りが業者より届く。ただし、原稿未提出の部分はスペースを空けたままである。そして、第1次ゲラ刷りが届いた日又は翌日に委員会が開催され、ゲラ刷りの読み合わせを行う。ゲラ刷りの読み合わせは、ほぼ1日かけて全員で文章を読み、事実確認や誤字脱字のチェックを行う。読み合わせの後、訂正・修正箇所を業者に連絡する。

定例会翌月13日頃に、第2次のゲラ刷りが業者より届く。第2次のゲラ刷りは、広

報常任正副委員長により確認され、訂正箇所などがあればその都度業者へ連絡する。大きな修正がある場合はその修正後、発行責任者である議長に議会だよりの発行について決裁をあげる。

その後、定例会翌月18日頃から20日頃にかけて、最終ゲラ刷りをあげてもらい、正副委員長が確認し、訂正箇所はその都度連絡調整する。そして、委員長が最終確認後、業者に印刷にかかるよう連絡をする。この間、業者とのやり取りは、基本的に議会事務局は通さず、委員が直接やり取りを行っている。

定例会翌月末日の前日に議会だよりの納品がなされ、末日に配布がなされる。

いずれにしても、広報常任委員会の委員の活動は、委員会開催以外にも多忙となり、委員数8名でも大変であるとのことである。

3 誌面構成見直しに至った経緯について

平成6年に創刊した「みんなの市議会」は、平成28年7月25日から27日に岡山県美咲町・津山市、兵庫県三田市での広報常任委員会先進地行政視察における議会広報作りの調査を基に、委員会における協議により、第84号（平成28年11月）から誌面構成の大幅見直しが行われている。

まず、誌面規格の見直しとしては、ページ数は12ページから20ページに、2色刷から4色刷に、白黒写真及びイラストを使用からカラー写真及びイラストを使用などに変更された。ページ単価としては、業者との協議により2色刷と同単価で実現できたとのことである。

誌面構成見直しにあたっての考え方としては、文字数は少なく、写真は多く、余白は多くとの考え方のもとでリニューアルを行ったとのことである。理想的な割合としては、文章4：写真3：余白3とのことである。また、それまでの編集方針としては、審議内容を全て載せて伝えることにあったとのことだが、さきの委員会視察により、いかに内容を削って文字を少なくし、市民に見やすく伝えられるか、いかに多くの市民に見てもらえるかに主眼が変わったとのことである。そのほか、「余白をおそれない」誌面作りとして、東京都あきる野市議会の議会だよりの参考にもしているとのことである。

4 誌面構成見直しに際しての外部意見の聴取等について

平成28年の誌面の大幅な見直しに先立って、約10年前から元全国都道府県議会議長会・議事調査部長の野村稔先生に、議会改革の講演を依頼したのを縁に、議会だよりを送ってアドバイスを無償でいただいているとのことである。

またその他に、議会だよりの朗読ボランティアの方々との意見交換も行ったとのことである。ボランティアの方が読みやすく、目の不自由な方が聞きやすいという視点での有意義なアドバイスをいただけたとのことである。

議会だよりに関する市民アンケート等は特に行っていないとのことであった。

その他、江別市議会の女性議員の多さに着目し、女性の視点を取り入れての誌面見直しも検討してはどうかとのアドバイスもいただいた。

5 誌面構成見直し後の市民や議員の反応について

平成28年の誌面構成見直し後の反応としては、カラーになった事に対する好意的な意見のほか、一般質問の議員写真の大きさや撮り方に対する意見、文字数を減らすこと

で情報量が薄くなるのではという意見があったとのことである。

また、視察で学んだ後に、すぐに誌面の見直しを実現できたことに対する驚きもあったとのことである。このことについては、見直し当時の委員長が語っていたが、先進地視察において「この表紙では次のページを見る気がしない」「文字が多くて見づらい」などの厳しい指摘が相当ショックであったようであり、その悔しさが誌面の見直しへと動いた原動力であったとのことである。我々も、今回の視察で当市議会だよりについて同様なアドバイスや時には厳しいご指摘もいただいたところであり、今後、市民にとって見やすい、手に取っていただける議会だよりの見直しに向けて是非とも強い意思を持って実現してほしいとの激励もいただいた。

《登別市》

1 登別市の沿革

登別市は、海・山・川、そして温泉と素晴らしい自然に恵まれており、国内外から年間約400万人の観光客が訪れる全国有数の観光地である。

明治2年に仙台藩白石城主である片倉小十郎邦憲が、登別の開拓を始めてから約130年の時を経た昭和45年に市制が施行され、現在に至るまで北海道内における中堅都市として発展を続けている。人口は約4万9,000人（平成30年3月31日現在）で、平成8年度からは「人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のぼりべつ」を目指してまちづくりに取り組んでおり、現在は平成28年度から平成37年度までの総合計画第3期基本計画を推進中である。

2 議会フォーラムを開催するに至った経緯について

登別市の議会フォーラムは、平成18年度における議会改革の取り組み経過において、『議員定数の3名減・定例会の年3回開催（6月議会廃止）※1』を実施したことから、議会の活性化維持のため「6月議会の補完」を目的とする、市民との意見交換の場として開催されている。

平成19年度に第1回議会フォーラムが開催され、以降テーマや形式を変えながら、現在まで継続されている。

3 開催形式とテーマについて

議会フォーラムは、登別市議会基本条例における市民参画及び市民との協働を実現するための重要な活動として、議会運営委員会の主催で開催されている。テーマについては、まちづくりに関する重要なものとし、議員間で時間をかけて協議を行いながら決定している。

○第1回（平成19年度）

議会改革をテーマに3会場で市民の意見を伺う形式で開催。

○第2回から第6回（平成20～24年度）

テーマに沿ったグループ討議等を中心とした意見交換会を4会場で開催。

○第7回（平成25年度）

議員定数・議員報酬をテーマに、議員のみによる勉強会、そして一般市民も対象とした講師を招いての講演会と意見交換会を1会場で開催。

○第8回（平成26年度）

市内の学生を招いての模擬議会を議場にて開催。

○第9回（平成27年度）

市内の学生を招いての意見交換会を1会場で開催。

○第10回（平成28年度）

各常任委員会の重点活動テーマに対する意見交換会を4会場で開催。

第1回は市民意見を聞くところからスタートし、グループ討議等を中心とした意見交換会、報告会や講演会などの様々な手法にチャレンジしながら、議会全体として「市民の声を聴く場」と位置づけて毎年定期的で開催されている。第10回からは議会フォーラムのテーマを委員会活動の「重点活動テーマ」と連動させた形式とし、今後も同様に開催される予定となっている。

4 議会フォーラムの結果のフィードバックについて

開催後は報告書を作成し、当日の資料や市民からの意見、アンケート結果を掲載している。また、最終ページには主催者である議会運営委員会委員長の総括を掲載している。この報告書はホームページにおける公開のみならず、来場した市民（アンケートに住所を記載した方）や開催前に議会から参加案内を送付している市内各団体に対して、郵送による配布も行っている。

平成28年度からは各常任委員会で策定した年間活動計画の中の「重点活動テーマ」を議会フォーラムのテーマとしており、議会フォーラムの場で市民から寄せられた意見と共に、常任委員会として重点テーマに沿った行政視察や関係団体との意見交換等を行う中で政策提言をまとめている。最終的には議会として政策提言書を作成し、議長から理事者に提出している。

5 今後の議会報告会のあり方について

現在全国の自治体で、議会報告会や意見交換会など、議会が住民の皆様の意見を直接お伺いするために様々な取り組みを行っている。江別市でも「市民と議会の集い」を開催しており、昨年で4回の開催を数えたが、未だ開催形式が固定しておらず、議会内での議論を重ねながら試行錯誤を続けている。

登別市における議会フォーラムは、まずは「市民の皆様の意見をお伺いする」ことから始まったものだが、議会改革の推進と歩みを合わせながら磨き上げられ、平成28年度からは常任委員会における年間活動計画書でうたわれている「重点活動テーマ」に対する政策提言を行うための重要なピースの一つとしての意見交換会という姿になっている。

このように「何のため」に開催するかを明確にし、市民の皆さんと力を合わせて政策形成を行っていく取り組みを検討する必要があるとのことである。

※1 平成23年度より6月議会が再開されることとなり、現在の定例会は年4回。